

「無飛松・むひまつ®」の使用経験と臨床的意義



旭川医科大学病院 周産母子センター 産科

講師

中西 研太郎 先生

はじめに

経腔超音波検査で用いる経腔超音波プローブ（以下、経腔プローブ）は、産婦人科医が最も使用する医療機器の一つであるが、使用後の経腔プローブは細菌汚染されていることやHIV、ヒトパピローマウイルス（HPV）などにも汚染されることが懸念されている¹⁾。そのことから、日本超音波医学会からも経腔プローブの取り扱いについて注意喚起がされている。米国疾患管理予防センター（CDC）のガイドラインでは、経腔プローブはスポルディング分類でSemi-critical（健常でない皮膚や粘膜に接触する場合）に分類されており、プローブカバーの装着と高水準消毒が推奨されている²⁾。しかし、外来や病棟診察において、患者ごとに経腔プローブを洗浄することは、時間やコストの負担が大きい。特に物価高で経営が逼迫している病院への導入にはハードルが高く、実際には患者ごとにプローブカバーを交換するだけで、高水準消毒を実施している施設は少ないと推測される。

当院における無飛松採用までの経緯

当院でも、経腔プローブの洗浄機器は導入できていない。元々産科病棟では、妊婦や褥婦の診察の際に帯下や悪露などでプローブが汚染されやすいことから、経腔プローブのハンドル部にラップを巻き、その上にプローブカバーを付けて使用していた。しかし、ラップは患者ごとに付け替えているわけではなく、付けっぱなしのまま複数の患者を診察していることが多々あった。そのような中、無飛松・むひまつ®（以下、無飛松）の存在を知り、2022年3月に試用サンプルを使用したところ、産科医師、病棟スタッフ共に好評であり、以降、産科診療では外来および病棟で現在に至るまで継続使用している。無飛松採用のポイントは、まず、感染防止のレベルが高いこと、次に装着が簡便であること、最後にコストが安価であることが挙げられる。プローブカバーを外す

際にはプローブの汚染の可能性が考えられるが、無飛松はプローブカバーを包み込むように外すことができるため、経腔プローブへの飛沫が軽減するだけでなく、カバーを外す医療者への曝露のリスクも軽減できるのは重要な点だと考える。また、無飛松のコストも安価であったため、当院での採用はスムーズであった。

使用の実際

無飛松は産科外来および産科病棟診察室の2か所で使用している。使用頻度はほぼ100%であり、産科医が診察する前に、助産師や看護師、看護助手が無飛松をセッティングした経腔プローブを準備してくれる。無飛松のセッティング方法については、図1-1のように、最初は無飛松を経腔プローブに被せ、プローブの先端が出るようにする。次にプローブの先端にエコーゼリーを付け（図1-2）、その上からプローブカバーを被せて使用する（図1-3）。無飛松の先端部とプローブカバーが重なるのがポイントである。診察後は、無飛松の裾を把持してプローブの先端側に向けてめくりあげるように引っ張れば（図1-4）、プローブカバーが無飛松で覆われるように外せる（図1-5）。無飛松の先端とプローブカバーがしっかり重なってセッティングされていれば、外す際にプローブカバーの根元を押さえなくても問題なく外せている。

無飛松のセッティングは簡便であり、実際に当院の診察介助についてくれる複数名のスタッフに聴き取りしたところ、無飛松の先端部が細いため、経腔プローブに通す際に初めのうちは慣れない人もいたようだが、すぐにコツは掴め、特に負担にはなっていないとのことであった。そのため、プローブカバーの付け替えで診察時間を圧迫することなく、産科医としても、日常の診療業務に支障はないと思われる。

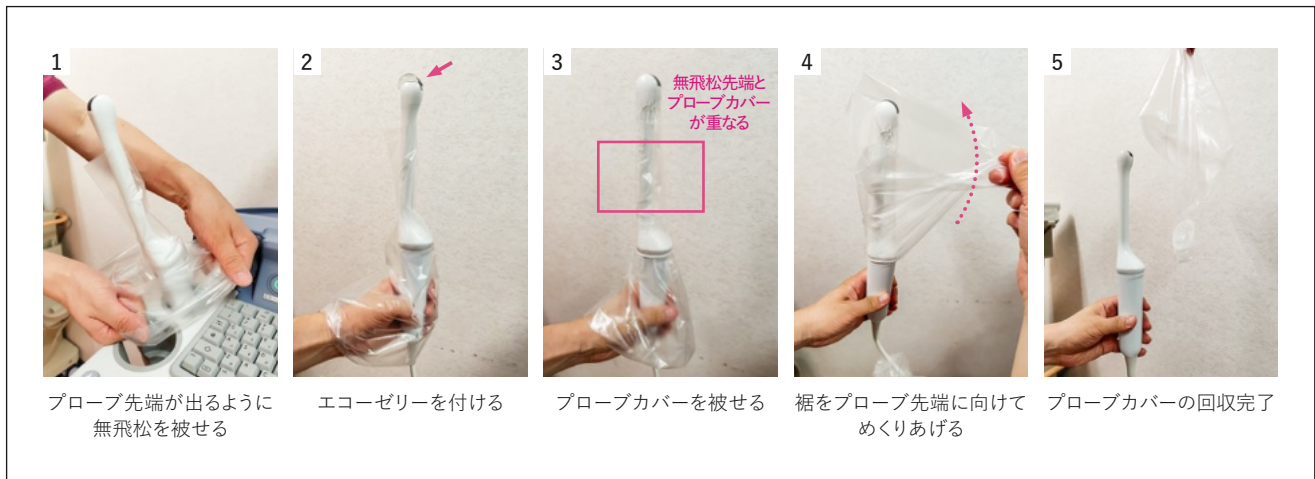


図1 無飛松のセッティングと診察後の回収

無飛松使用の臨床的意義

当院では、産科診療のみに使用しており、特に、妊娠中の帯下が多い場合や産後の悪露が排出されている場合など、診察時に飛沫が飛びやすい場面での使用意義が高いと考えている。デメリットとしては、診察介助者が慣れるまで、無飛松の装着を負担に感じる可能性があることや、安価ではあるものの多少のコスト増加があることが挙げられるが、前述したように、装着はすぐに慣れると思われるし、コストもそこまでの負担にはならないと思われる。ただし、あくまでも経腔プローブは高水準の消毒が必要な医療機器であることは認識しておく必要がある。

まとめ

経腔プローブは高頻度に汚染される医療機器であり、プローブカバーの交換のみでは感染対策は不十分である。世界的には患者ごとの高水準消毒が推奨されているが、導入へのハードルが高く、臨床現場では感染対策のばらつきが大きくなることが予想される。そのような中、無飛松は医療機関にとって導入しやすいことから、経腔プローブの感染対策の第一歩として活用することを提案したい。

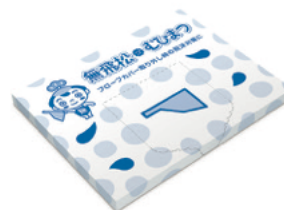
参考文献

- 1) Leroy S, et al. Infectious risk of endovaginal and transrectal ultrasonography: systematic review and meta-analysis. J Hosp Infect 2013; 83: 99-106.
- 2) Abramowicz JS, et al. Guidelines for Cleaning Transvaginal Ultrasound Transducers Between Patients. Ultrasound Med Biol. 2017; 43(5): 1076-1079.

無飛松[®] むひまつ

超音波検査後の飛沫・感染対策に プローブカバーバッグ

- プローブカバー
取り外し時の飛沫対策に
- 経腔・経肛門・経直腸等
エコー検査に
- 汚染した体液から
医療従事者を守ります



Women's Health Japan



Women's Health Japan

ウィメンズヘルス・ジャパン株式会社
〒111-0053 東京都台東区浅草橋3-20-18 第8菊星タワービル2F
www.womenshealthjapan.com
【製品に関するお問合せTEL】 03-6240-9611



WHJ-MA0023-MH/2026.07 (3K) A-N